

■令和4年度第2回和歌山県スポーツ推進審議会 議事録

日 時：令和5年3月8日（水） 13：30～15：20
場 所：ホテルアバローム紀の国 3階 孔雀の間

- ◆出席者：山下 郁夫会長（県体育協会副会長）
橋爪 静夫副会長（学識経験者）
太田 謙二（県小学校体育連絡協議会会長）
押村 浩（学識経験者）
阪本 憲二（障害者スポーツ代表）
田村 光穂（県スポーツ振興財団常務理事）
中西 朋子（スポーツ選手・指導者代表）
西上 嘉人（県高等学校体育連盟会長）
坂東 あつみ（女性スポーツ代表）
彦次 佳（学識経験者）
古谷 友宏（県中学校体育連盟会長）
南 由佳（学識経験者）
森下 順子（学識経験者）

- ◆事務局：宮崎教育長
栗生生涯学習局長
スポーツ課 田伏課長
上野副課長
安井副課長
武野主幹
大原総務管理班長
森スポーツ企画班長
橋爪生涯スポーツ班長
義務教育課 武田指導主事
障害福祉課 下村主幹

◆議事

1 開会

2 教育長挨拶

3 委員紹介

4 議題

（1）令和5年度におけるスポーツ団体に対する補助（案）について

資料1-1、1-2により事務局が説明

〔質疑応答なし〕

（2）令和5年度における本県スポーツ振興の取組について

- ・令和5年度和歌山県生涯スポーツ振興基本方針（案）について

資料2-1により事務局が説明

- ・令和5年度和歌山県競技力向上対策基本方針（案）について

資料2-2により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

生涯スポーツ振興基本方針で、誰もが気軽に生涯にわたってスポーツに親しめるように地域のスポーツ活動のより一層の推進を図ることが大きな目的になっていると思う。(6)のスポーツへの参加促進について、実際に地域のスポーツ団体や市町村との連携をどう進めていく考えなのかお聞きしたい。

(事務局)

県としては、主に大規模なワールドマスターズゲームズや市町村対抗ジュニア駅伝の開催等を進めているところ。

あと、競技ごとに全国大会や国際大会もあるかと思うが、その誘致に向けても、競技団体と連携してキャンプも含め、誘致活動を進めている。

大会等の誘致が実現可能となれば、県の補助事業等を活用して進めていきたいと思う。

(委員)

きっかけづくりは、県の事業っていうイメージでよろしいか。だとすれば、県のスポーツ振興基本方針として、地域のスポーツ活動や、市町村の支援っていう部分に関しては、予算でいうと広域スポーツセンター事業の100万の部分になるかと思う。

一昨年も同じようにお聞きしたと思うが、日頃のスポーツ活動を進めていく中で、大規模なイベント等を実施すると、地域の人が逆に利用できなくなってしまうことがよく起きている。

きっかけからどう日頃につなげていくかは市町村の問題かもしれないが、その辺りの連携をとっていただけると、地域で活動していく団体としては非常に動きやすいかなと思う。

(委員)

生涯スポーツに関連して、先日、私ども財団が管理するビッグウェーブという施設で、総合型地域スポーツクラブと体育協会が一緒になって、ダンスの発表会を実施した。

競技ダンスやヒップホップなど、たくさんお集まりいただいた。コロナでかなり人数制限をして、残念でしたがそれでも押し寄せるように保護者や関係者の方が観覧にお見えになり、久しぶりにスポーツの盛り上がりを感じた機会でもあった。

総合型地域スポーツクラブは、根付いて、いろいろ頑張っているということを実感したとともに、一方で、中学校の部活動を地域移行するという一つの受け皿にもなっているというふうに向っている。

和歌山県の総合型地域スポーツクラブは県体育協会がやっておられるが、スポーツ課として、どういうふうな方針を持って、この拡大推進に取り組みようとしているのか、予算の面の数字だけではわからない部分があるので、その辺りを少しお伺いしたい。

(事務局)

先ほど委員からもご質問があったように、きっかけづくりをして、そこからどうつなげていくかというところで、やはり地域での多世代、多志向等のスポーツの機会っていうのは総合型クラブが担うところが大きいと思う。

そして、中学校の休日の部活動の地域移行、それは総合型クラブだけが受け皿ではないですけれども、やはり運営主体として、個人の教室よりも総合型クラブの方が運営面でもしっかりされているところが多いと思うので地域における総合型クラブの育成支援については、広域スポーツセンター事業をはじめとして推進していきたいと考えている。

(委員)

ありがとうございます。ただ、以前この総合型が生まれて、広げていこうというときのエネルギーはすごく高かったような印象を持っているが、最近やや停滞気味ではないのかなという気がする。

やはり地域で各種いろんなスポーツの機会を提供するという、大変大きな受け皿になっていくものだと思うので、ぜひ市町村と教育委員会とともに総合型をここでもう一度ブラッシュアップと発展に向け、ぜひお力を入れていただければありがたいと思いますのでこれは意見として申し上げます。

(委員)

私から一つだけご意見申し上げたいと思う。

スポーツキャンプ誘致の推進について、和歌山県下にスポーツ施設は大変立派なものがたくさんある。

例えば、高等学校のラグビーの選手たちは夏休みに、(長野県)菅平に全国から集まる。そこで30以上の農家の畑を全部グラウンドにして、そこで有名な学校同士が練習試合を行い非常に盛り上がっている。

この前、田辺の方の会議で申し上げたのですが、例えば、同じ時期に高等学校のサッカーチームを誘致するならば、それぞれの市町村がもっと横の連絡を取って、1週間ならば1週間、いろんな学校へそれぞれアプローチをするなど、要はもっと有効にやったらどうだろうと考えている。

今のところ市町村がバラバラで誘致活動をしていると思うが、県がある程度、主導とまでは言わないが、中に入ってもっと効率的にスポーツキャンプを運営できればもっとよくなるのではないかと思う。

(事務局)

スポーツキャンプについて、紀南エリアは各市町村が連携した南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会というものを立ち上げている。紀南地方については、ナショナルチームみたいな合宿ではないのですが、クラブチームやトップリーグ系のラグビーやサッカーを年間15近くの誘致を進めてくれている。

県は、もともとオリンピック、パラリンピックに向けて、代表チームのキャンプ誘致等も進めてはいましたが、一度そのコロナもあって停滞したところはある。来年度から全県的に県の方でグリップして、誘致活動を積極的に進めていきたいと思っている。

(3) 和歌山県スポーツ推進計画の見直し(改訂案)について

資料3により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

三つの基本計画を併記しながら、それぞれの整合性を図って、まとめていただいているという点で、私は事務局の皆さん方の努力がここに表れていると思う。

過去5年間の成果と評価と今後の課題の修正を加えていただいている。数値目標も5年間の最初から目指していた数値に向けて、修正していただいているという点で、7割程度まで出来上がっているのかなと思うほど、よく検討していただいていると思う。

国の基本計画を参酌しながら、我々の計画を作成していく中で、かなり無理をして本県の計画の中に組み込まれていると思う部分がある。国の大きい部分は次期計画に向けての検討課題として国の計画を位置付けている。

国の計画の第一期と第二期については、だいたいの内容を私たちは理解でき、それが組み込まれて、今の県のプランができています。

ただ、今回の第三期の計画はスポーツがすべてと。スポーツが何でもできると、スポーツを通じて何でもできる、要するに、スポーツへの期待が今回の計画では大きすぎると。これでは各県や市町村が参酌することは極めて困難であろうと、だから次期計画に向けて検討という形で、逃げておりますけれども。それもやむを得ないなと思っている。

例えば、スポーツを推進することによって健康体力の増進を図っていくとか。或いは、スポーツによってまちづくりをしていくとか。スポーツによって成長産業化を図って、数兆円の利益を上げられるようにしているとか、或いは共生社会の実現を図っていくとか。これはスポーツに対して期待をかけすぎで、しかも、スポーツをすることによって、こういうことを目指すという計画になっている。

スポーツそのものが目的ではなく、スポーツを推進することによって、スポーツを手段として、こういうことを目指していくという計画になっている。スポーツそのものが目的ではなく、スポーツは手段になった国の計画になっている。これは大きい間違いをしていると思う。

いわゆる目的と手段はもう完全に入れ替わってしまっている。和歌山県の第1回目で作ったプランが、スポーツ推進計画としてオーソドックスであり、本来の姿だと思う。国の基本計画に振り回されて、それをどうこうするのは避けた方がいい感じがする。

スポーツは何かのためにやるのではなく、スポーツそのものが目的。県民の皆さん方にスポーツをどう楽しんでもらうか。資料に生涯スポーツの推進計画がある、競技スポーツの推進計画がある。ここでいう生涯スポーツは非常に狭い意味での生涯スポーツを捉えているので、私はこの意見には最初から反対だが、生涯スポーツは競技スポーツ、学校体育スポーツも全部含めて、生涯にわたってスポーツとの関わり合いをもつライフロングスポーツ。だから、ここで言う生涯スポーツは世間一般にとらえられている狭い意味の生涯スポーツ、みんなのための、楽しむための、誰もがやるためのスポーツ、これの推進計画。

それからもう一つは、教育の推進計画。これを基盤として、生涯にわたってスポーツとかかわり合いを持っているように指導するのは学校体育スポーツである。

この柱だけを県の推進計画を抑えていくということが重要であり、何々するためにスポーツを推進しましょうという考え方で、県民の皆さん方に触れ合わないにしましょう。だから、第1のプランにどう修正を加えていくかということにしてはどうか。

7割まで事務局の方で過去の5年間踏まえて推進計画を数値目標が出していただいているという点で非常にいいのですが、先ほどからお聞きした生涯スポーツ推進計画や競技スポーツ推進計画はこの中に完全に盛りきられていない。

従って、この素案を学校体育、高体連、中体連、競技力向上については体育協会、障害者スポーツについては福祉、このあたりでもう1回この素案を点検していただき、5月に出していただければ、もう9割までできるのではないかと。我々の意見をそこで一部修正すれば、推進計画ができ上がるころまでまとまっていると思う。

(委員)

推進計画はしっかりと練られているなと思う。私は小学校なので、小学校の立場で現状をお伝えする立場にあるのかなと思うので、少しお話ししていただきたい。

うちは30年来続いている体育の研究指定校で、県下的にも体育の取り組みをやっているなど自負している学校。やっぱり体育の授業だけでは運動量は確保できないっていうのは事実だと思う。

ただ、うちの学校では体育の授業で学んだことを遊びの中で生かすということもやっている。休憩時間もほとんどの子が運動場に出て体を動かしているような学校。竹馬とか一輪車があり、すぐにとって遊べるような環境が整っているという研究指定校ですが、こと体力テストの結果でいうと、各学年D判定の子が多い。もし体育の研究指定校でなかったらもっと低いかもという危機感すら覚える。

ただ、子供たちにアンケートすると93%の子は体育の授業が楽しいと言っている。体育

はその子供の素の姿が出るので、やっぱり嫌なこと言われたりとかってということもあったりするので、みんなが楽しいとはなかなか思えない。93%はかなり高いと思っているが、体力に結びついていないというところがありますので、我々もっと研究していかないといけないと思っているところ。

小学校における体育は教科書がないので、マニュアル的な授業が難しい教科であるなど思っている。それだけにやりがいがあるが、指導者のばらつきがあると思う。

うちの学校は今年、プログラムモデル校に指定していただいて大変ありがたかった。やった授業者は、ものすごく意気を感じて終わりましたし、ご指導もいただいたので、すごくよかったなとありがたく思っている。そういう授業力の向上に向けた取り組み、今もされていますが、さらに充実していただければ、我々としてはうれしいなと思う。

あと、きのくにチャレンジランキングも、うちの学校は取り組んでいる。5年生の2組さんが244回飛びました。5年の部で県3位、市内では一位で、すごく励みになってやっている。ずっと続けられるっていうのが、いい取り組みだなと思う。

あと、市町村対抗ジュニア駅伝では、和歌山市が8年ぶりに優勝し、6区走った子がうちの学校の児童で、区間賞をいただきました。ジュニア期から育て、都道府県駅伝で活躍する、そういう子が育てているのはすごく大きいことだなと思っている。

あと、うちの学校では土曜日に、土曜センターをやっていて、いろんなスポーツイベント開いている。スポーツ課の方にも来ていただいて、ご指導いただきましたし、親子で体力測定会ということもやっている。引き続き指導に来ていただけると嬉しく思う。

(委員)

別紙3で、非常に丁寧に網羅していただいて、幅広く見ていただいていると思うのですが、ちょっと中身が見えない。5月の推進審議会では、一つでも二つでもいいので、この新しく修正していただいたところに、具体的にはこういう取り組みをやりますよというのがいただけたら、我々もわかりやすいかなと思う。

整備する、充実を図るといえるのは非常にいい言葉ですが、一体どうやってやるのかなというのが見えてこない、僕らもこれでいきましょうかと賛成もしづらいので、是非お願いしたいと思う。

(委員)

私は幼児教育の部分で少し具体的なところの考えを述べさせていただきたいと思う。1ページの右から、ページ数8の横に、幼児期のことを挙げてくださっている。

国の方はここまで具体的に、述べられていないのですごくありがたいなあとというふうに思っている。その中で、この乳幼児期っていうのは直観的な子供の動きとか試行段階であるので、もちろん先生方の運動遊びの指導の普及とかってというのは質の向上という意味ではとても大事なことだと思うが、子供たちは実際にやってみたりするっていうところが大事なので、別にトップアスリートではなくても、地域のスポーツをやっている現場を見て、可能であれば、そこに参加してみるとか、そういうふうにいるようなスポーツに触れて、好きなスポーツを今後続けていけるようなところでいいのかなと思う。

実際、地域性によってトップアスリートと出会う機会があるところとないところがあると思うので、それよりも地域でスポーツを、それこそマスターズでスポーツをされている方もいいと思う。小学校とか中学校でスポーツされている方でも、十分子供たちって刺激になるので、そういうところを少しやっていると現実があるのかなと思う。

運用時期はマット運動するとか野球をするというよりは、子供たち自身が全身を使って遊ぶところから、体の基礎づくりができると思うので、何かそういうことも指導の中に入れていくといいなというふうに思っている。

5 報告事項

(1) スポーツ生活に関するアンケートの結果報告について

資料4により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

特に気になったのが、まず4ページを見ていただければと思う。県民の皆さんのスポーツ参加の興味関心というところで、する・みる・支えると並んでいる「支える」のところで「全く興味がない」と「あまり興味がない」を足すと7割を超えている。

それを裏付けるかのように、30ページをご覧いただけますでしょうか。スポーツボランティアの実施意欲というところで、「行いたい」と答えている方がものすごく少ない。

やはり先ほどスポーツイベント等々を誘致してということもありましたが、そういったイベント等で、ボランティア等により支えるスポーツの楽しさをしっかり発信していき、このスポーツを支えてあげたいとか、支えたいという意欲を持つ人を増やしていかないといけないと思っている。

それと、「する」スポーツのところで言うと、先ほどからご報告があったように50数パーセントの半数を超える人達が週に1日以上実施しているという状況ではありますが、何年か前にもここで申し上げましたが、9ページをご覧ください。県民の皆さんがどんなスポーツ種目、運動スポーツ種目を実施したかというグラフになっている。

端的に申しますと、要するにいわゆる運動身体活動と呼ばれるものがほとんど。県民の運動スポーツ実施率はほぼウォーキングで支えられている。

いわゆるスポーツというところでは、この6行目以降になってくるのかなと。本県の令和9年度の目標が70%になっている。相当難しいと思う。そのため、いろんな種目に触れる機会であるとか、そういったものを味わっていただく、楽しいと思っていただくような取り組みをやっていかないといけないと思う。ぜひ考えていただいて、そして一緒に協力させていただければと思う。

(2) 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

資料5により事務局が説明

〔質疑応答なし〕

(3) 全国高等学校総合体育大会及びヨット競技大会について

資料6により事務局が説明

〔質疑応答なし〕

(4) 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備について

資料7により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

部活動の地域移行のことについて、令和5年度から令和7年度までの3年間で国としての移行期間ということだが、県として令和5年度はどういうふうに進めていっていかたいのかをお聞きしたい。

理由としては、市町村の担当者や、地域の校長先生からお聞きするのは、県の方から指示が出てないので動けないということがあって地域の総合型クラブとしても、どういうふうに関連していいかの指針がわからないので教えていただけるとありがたい。

(事務局)

最後にご報告報告させていただいたように令和 5 年度当初に県の協議会を立ち上げさせていただく。1月の終わりに、市町村教育委員会の担当者向けに説明会も開催し、県の協議会の立ち上げとともに市町村においても協議会を立ち上げていただきたいと説明させていただいている。

もちろん県内の市町村の中には、すでに協議会を立ち上げ、どんどん進んでいるところもある。県の方で足並みをそろえてくれというようなストップやブレーキをかけるものではない。各市町村で準備でき次第、どんどん進めていただいて結構ですと説明もさせていただいている。協議会の方で、推進計画をまず迅速に策定し、それを示しながら検討して進んでいきたいと思っている。

(委員)

市町村の協議会で進めていくという流れで、各学校単位で進めていくものではないという判断でよろしいか。

(事務局)

各市町村に協議会を設置されることが想定されるが、もちろん学校現場、生徒や保護者の意見をしっかりとらえた上で協議をしていくことが必要であり、各学校には地域の方々が参画しているコミュニティスクールがありますが、もちろんそこも生かしていただきながら、協議会は市町村教育委員会が主として設置されて、現場、保護者の意見を確認し、吸い上げながら、県と連携していくと、そのように想定している。

(委員)

部活動の地域移行について、総合型地域スポーツクラブ、或いはこの地域クラブ活動というのは、先ほど委員もお話のように、当初のような熱意は私も感じられないというふうに思うのですが、大変この役割が大きいかなと拝察する。

やはり学校の部活動、片方では地域クラブ、これを同列で活躍して初めて子供たちのスポーツ充実、体力或いは競技力の向上に役立つのではないかと思うので、もう一度その辺を精査、見直して市町村の方々とも協議して、和歌山県の一つのモデルを作っていただくと大変嬉しく思う。

(5) ワールドマスターズゲームズ 2027 関西の会期決定、概要について

資料 8 により事務局が説明

【質疑応答なし】

(6) 第 77 回栃木国体総合成績について

資料 9 により事務局が説明

【質疑応答なし】

(7) 第 22 回全国障害者スポーツ大会について

資料 10 により事務局が説明

【質疑応答等】

(委員)

メダル数については全国レベルでいうとどれぐらいの位置になるのか。

(事務局)

第 16 回というのは、こちらの方で行っているのだからメダル数が多い会になっている。

そこから考えると若干メダル数は少なくなっているが、団体競技のバレーボールは優勝、準優勝など、競技によっては最高水準ぐらいになっているものもある。

(委員)

全国レベルより上と理解してよろしいか。

(事務局)

種目によりまして全国レベル以上に達しているものがありますし、やはり種目によるかなと思う。

6 閉会